

4月4日(土) 14:00 エコーホール
 エコーメモリアル・チェンバー・オーケストラ
「名曲の花束 2015」彦根公演【共催事業】
自由 【発売中】一般 3,000円 大学生以下 1,500円
 友の会・障害者・高齢者 2,700円



※当日券の場合、
 それぞれ500円増
 ※未就学児入場不可

4月12日(日) 14:00 エコーホール
オペラ物知り講座 in ひこね vol.8【協力事業】
大阪音楽大学出張講座「メリー・ウイドウ」
自由 【発売中】
 一般 前売 2,000円 当日 2,500円
 友の会 前売 1,800円 当日 2,300円
 ※ペアチケットは完売しました。

4月26日(日) 14:00 エコーホール
高木充江 ソプラノリサイタル【協力事業】
ひとつの花が咲くように…そして今「枕草子」
 ソプラノ：高木充江 ピアノ：今堀智子
 ソプラノ：山本哲子 チェロ：辻寛子
 フルーツ：中川真由美 合唱：コールほなみ
自由 【発売中】一般 3,000円 ペア券 5,000円

5月6日(水・振) 14:00 エコーホール
エコーホールピアノメンバー第6回演奏会
「ア・ピアチュレ」
 優れた音響特性のエコーホールで外国製フルコンサート
 ピアノを使用して練習を重ねたメンバーの成果発表。
自由 【発売中】一般 500円 学生無料
 ※チケットはひこね市文化プラザ窓口のみ取扱いします
 ※未就学児入場不可

5月28日(木) 10:30 メッセホール
「ベビーといっしょにコンサート」
 赤ちゃん連れの親子・家族で楽しめるコンサート。
自由 【発売中】一般 500円 未就学児無料

6月7日(日) 16:00 グランドホール
Kiroro コンサート 2015

「長い間」「未来へ」「Best Friend」…
 あなたの心に染み渡る歌声
 をお届けします。

指定 【発売中】
 一般 5,500円
 友の会 5,000円
 高齢者(65歳以上)・障害者・
 学生(大学生以下) 5,200円
 ※未就学児膝上無料。
 席が必要な場合は有料



ひこね市文化プラザ **友の会会員募集中!** 詳しくは☎26-8601へ
 ひこね市文化プラザ **サポーターズ(運営ボランティア)募集中!**

4月の休館日 6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)

6月30日(火) 昼公演14:00、夜公演18:00 グランドホール
宝塚歌劇星組全国ツアー公演
 ミュージカル・ロマン『大海賊』-復讐のカリブ海- 作・演出：中村暁
 ロマンチック・レビュー『Amour それは…』作・演出：岡田敬二



北翔海莉(ほくしょう かいり) 妃海風(ひなみ ふう)
 ©宝塚歌劇団 ※写真は公演内容とは異なります

指定 【発売中】残席わずか
 一般 1・2階 S席 7,300円 2階 A席 5,500円
 友の会・高校生・大学生・専門学校生・障害者・高齢者
 1・2階 S席 6,570円 2階 A席 4,950円
 ※未就学児入場不可

7月18日(土) 昼の部12:30 夜の部16:30
 グランドホール
松竹大歌舞伎



◆演目
 一. 河竹黙阿弥作「天衣粉上野初花 河内山」
 二. 藤娘 長唄囃子連中
 芝翫奴 長唄囃子連中
指定 【一般発売 4月18日(土)】一等席 7,000円
 二等席 5,000円 三等席 3,000円
 【友の会発売 4月11日(土)】一等席 6,500円
 二等席 4,500円 三等席 2,500円
 学生(大学生以下)・障害者・高齢者 一等席 6,700円
 二等席 4,700円 三等席 2,700円
 ※未就学児入場不可

早得!
 5月30日(土)までに「松竹大歌舞伎」のチケットを購入された人は、プレ
 セミナーに100円で入場できます(本公演チケットを提示ください)。

5月31日(日) 14:00 メッセホール
松竹大歌舞伎プレセミナー

7月18日(土)開催の「松竹大歌舞伎」公演に先駆け
 歌舞伎の基礎知識や上演演目の見どころなどを
 わかりやすく解説します。

【発売中】
 一般 500円 友の会 300円

【出演】葛西聖司(アナウンサー・古典芸能解説) ※未就学児入場不可

【各公演 発売初日の予約の取り扱いについて】
 ※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
 ※窓口でのチケット引き取り・販売は**翌開館日**から承ります。

◎表記のチケット価格は、すべて税込価格です。
 ◎高齢者は65歳以上です。学生、高齢者、障害者は証明できるもの
 を提示してください。

とよきの玉手箱

博物館からのメッセージ

彦根城下白壁町の成り立ちー「白壁町古郷御改」

彦根の城下町は、関ヶ原合戦の4
 年後の慶長9年(1604)に、彦根城
 普請とともにその開発が始まり、江
 戸時代前期の17世紀末には人口3万
 人を超す都市となりました。城下で
 は、侍町、足軽町や町人地など、居
 住地が身分ごとに分かれていました。
 この内、商人や職人が暮らす町人
 地では、通りに沿って、間口が狭く
 奥行き長い短冊形敷地の町屋が軒
 を連ね、道を挟んで向かい合う両側
 の屋敷により町が作られました。彦
 根城下では53の町が出来ました。町
 は「家持」町人(町屋敷所有者)と、そ
 こから選ばれた町役人により運営さ
 れ、生活のための住民組織、さらには
 行政組織として機能しました。

53の町の一つに、白壁町(現本町一
 丁目中央町の一部)がありました。同
 町は、城下の区画分割が始まったと
 伝えられる本町(旧町名、現本町一〜三
 丁目)に隣接し、早くに開発が進んだ
 ところでした。この町で町役人を勤
 めた旧家に、慶安2年(1649)の
 「白壁町古郷御改」という帳面の古文



▲「白壁町古郷御改」の表紙(右)と本文

書が伝わりました(写真)。現在は寄
 贈を受け、彦根城博物館で所蔵して
 います。この帳面は彦根藩が住民調
 査を実施した時に町により作成され
 たもので、当時の白壁町の「家持」
 町人および「借屋」町人の各家の構
 成員、年齢、職業、白壁町にやって
 来た年次を含めた来歴、さらには奉

公人の情報まで、調査結果が細かく
 記されています。
 実は、このような城下町の町人に
 関する詳細な調査記録は、全国的に
 も稀なものです。彦根のみならず、江
 戸時代の城下町の町がどのような形
 づくられていったのかを知ることが
 できる極めて貴重な資料です。
 帳面には、合計45家が載せられ、そ
 の内訳は、「家持」17家、「家主」(町
 に不在の屋敷所有者)5家、「借屋」23
 家となっています。職業は、「家持」
 町人は、米屋(5家)、酒屋(4家)、小
 間物屋(1家)、紺屋(1家)、旅人屋
 (1家)、大工棟梁(1家)、茶売り(1
 家)など、一方、「借屋」町人は、小
 間物売り(4家)、たばこ売り(3家)、
 肴売り(2家)、大工(2家)、茶売り
 (1家)、豆腐屋(1家)などです。こ
 こでの酒屋は酒造業を営む者と見え
 られます。「家持」町人は、米屋や
 酒屋など大きな家屋敷を必要とする
 職業が目立っています。それに対し、
 「借屋」町人では、城下を回って品物
 を売る商人が多く見られます。

ここで、各家の来歴もあわせて注
 目すると、最も古い慶長10年を筆頭
 に40年以上にわたり白壁町に居住し
 ている家が12家あります。この内、
 9家が「家持」町人で、内訳は米屋
 4家、酒屋1家、紺屋1家、旅人屋
 1家、大工棟梁1家、茶売り1家と
 なっています。

町屋敷の所有、職業構成と町内居
 住年数の様子から推測すると、白壁
 町は城下の区画分割が始まった翌年
 の慶長10年に屋敷の割り当てが行わ
 れ、米屋を中核として町が形成され
 てきた経緯がうかがえます。
 白壁町の町名の由来は、富裕な町
 人が多く、白壁造りの屋敷が多かつ
 たことによるとの説がこれまで言わ
 れてきました。「白壁町古郷御改」の
 内容は、白壁町の成立の実態、すな
 わち「白壁」の実態を明確に示して
 いるのです。
 (彦根城博物館学芸員 渡辺恒一)
 彦根城博物館は6月1日(月)に
 再オープンします。